

笹川記念保健協力財団 中国医科大学支援事業（専門家派遣事業）報告

金沢大学医薬保健学域医学系(麻醉・蘇生学)

教授 山本 健

2012年2月29日

瀋陽市中国医科大学盛京病院麻醉科での講義内容:

- 2012.1.16.(月) 1. 東日本大震災と病院, 病院の地震対策,
2. 麻醉薬最近の進歩(特に中国では未発売のスガマデクスとデスフルラン
を中心に)
- 2012.1.17.(火) 3. 喉頭展開困難の対策, A. 金沢紹介
- 2012.1.18.(水) 4. Awake CABGとロボット手術, 5. 椎体全摘手術,
B. 金沢大学医学部の歴史と現在

お世話になった皆さん:

陳 衛民 教授, 朱 曉玲ご夫妻

潘 伯臣 外事処長

王 琛 外事処員

郭 Qi yong 盛京病院院長

徐 芸 (草冠と云の間にワ冠, Dr. Xu Ying, 通訳. 聞き取りは優れているが日本語の会話はも
うひとつか)

趙 平 Zhao Ping 医師(女性), 中国医科大学盛京病院第一麻醉科副主任

連夜各地の中国料理をご馳走になりました

1/15(日) 「金城飲食文化」(中国東北地方の郷土料理)

1/16(月) 「勺円飯店」(山東省料理)

1/17(火) 「水上海港」(回族料理)

1/18(水) 「柏晶酒店」(潘外事処長ご招待)

朝食はホテルのレストランで.

ホテルスタッフが入り口で部屋番号をチェックしている.

二度食いを防止するため? あるいは宿泊客の生存確認か.

多分 1/17 の朝食内容. 食べすぎかな?



料理の品揃えは豊富

麺類コーナー. あっさりした味でおいしいんですよ. 毎朝食べました



瀋陽市は人口 700 万人の中国第4の大都市. その分病院も規模が大きく, 盛京病院のベッド数は4300床以上という巨大病院.

中国医科大学附属病院は, 第一病院, 盛京病院(第二病院+第三病院), 第四病院, 歯科病院の4つ. 盛京病院はさらに3病院に分かれている.

1. 第一病院(旧満州医科大学に隣接): 麻酔科は第1麻酔科, 第2麻酔科の2つがある.
2. 盛京病院

A. 南湖院区(第二病院?):

瀋陽市市街地のど真ん中に建っており, わたしの講義もここで行った.

2つのビル(第1楼, 第2楼)からなる.

第1楼はさらに2つの棟(A座, B座)からなっており, 8FまではA・B座は一体化し, 9-24FはA・B座は独立している.

第1楼の手術室は4Fなので, A座(2007竣工)の部分とB座(2010/3竣工)

とが中央でつながっている。手術室入り口も A 座側・B 座側の2つある。

第1楼の手術麻酔は第1麻酔科，第2楼の手術麻酔は第2麻酔科が担当。

B. 滑翔院区(旧日中友好病院，第三病院)：南湖院区から約 10km. 第3麻酔科が月間 500 件ほどの麻酔を行っている。

C. 瀋北院区:南湖院区から 20km. 瀋陽市～昭陵の中間くらいの場所に現在建設中で，2年後に完成予定。郭院長の構想では，医学部キャンパスも瀋北院区の近くに移転したいが，人員や設備の確保が難題とのこと。現在の中国医科大学(旧満州医科大学)の土地・建物を売りに出して，その資金で新キャンパスを建てる計画らしい。「満州医科大学の煉瓦部分は歴史的建造物として保存されるとよいですが，どこが土地・建物を買うかによるでしょう」と陳衛民教授談。

3. 第四病院

4. 歯科病院

2012/1/15 (日)

前夜名古屋から移動して宿泊したラフォーレ新大阪ホテルを出て，JR はるかで関空へ。関空を定時の 13:10 に離陸し，2 時間半のフライトで，現地時間 14:40 にだだっ広い平原の真ん中，瀋陽国際空港着。

機体は双発のエアバス 319。ビジネスクラスのシート幅は広いがシートの電子コントロールはない。スリッパはあるがヘッドフォンなし。おしぼりサービスあり。



関空～瀋陽空港までに起こった事ども：

1. 昔徴収された関空の「空港使用料」なし。出国カードも廃止されていた。

中国元と日本円の両替レートは，出国前の関空内さくら銀行では 1中国元 (RMB) = ¥13.95.

出国後の関空トラベレックス ¥13.99. 同日瀋陽のホテルカウンターでは¥12.60 だったので、円から元への両替は現地がやや有利.

2. 関空の中国南方航空ビジネスクラス専用受付カウンターで「食事のサービスは？」と聞いたところ日本人スタッフがパソコンを調べて「残念ながら当機にはございません」との返事だったので、ビジネスクラスに提供される「JAL さくらラウンジ」で無料の昼食を済ませる. さらに電源もLANも利用できるのも、スライド原稿の手直しに約1時間励む. 暖房の効いたラウンジは、防寒下着だと暑い！

さて離陸して間もなく「お食事のメニューは何がお好みですか」と尋ねられました. そうでしょうや、国際線で食事のサービスがないはずがない. 頑なに「食事要らない」「飲み物は水だけでいい」と断り続け、中国人(らしい)スッチー「この日本人、どう扱えばいいの？」と困惑顔.

3. ビジネスシートは2列8席だが、私以外にはパイロットの制服を着た中国人のおじさんが一人だけ. 離陸早々に窓を閉めて寝始める. 前方のトイレは長時間乗務員が占領するし、「乗客よりも乗務員のほうが偉いんだ」という感覚です. 北朝鮮上空は当然飛ばないわけで、北朝鮮上空でブラインドを(強制的に)おろさせるというのは勘違いでしょう. 実際、ブラインドを下ろすようにとの指示はありませんでした.

4. スッチーに(機内免税品リストにある)「RMB って何の略？人民元？」と聞いても「判りませ〜ん」. 「飛行ルートが判る地図ない？」と聞いても「ありませ〜ん」. なんにもないのね〜.

乱気流でシートベルト着用サインが点いたのはいいが、その後静かな飛行域にはいっても着陸までサインが点きっぱなし. スッチーは「(点灯サインは)気にしなくていいです」. このあたりの乗客サービスはまだ未熟です.

5. 瀋陽空港国際線の到着通路には何にもなし. 税関検査は、現地係官が時々到着客(帰国した中国人で、大きな手荷物を持っているヒトが引っかかっていたように見える)をつかまえてX線透視装置に手荷物を通すよう指示していたが、荷物を開けさせられていた乗客は皆無. 入国審査では女の係官がパスポートを投げてよこす. 荒っぽ〜い.

両替の窓口も見当たらないうちに、出迎えに来てくれた中国医科大学麻醉科 陳衛民教授, 同大学外事処の王琛 (Wang Chen)さんとすんなり合流してしまった.



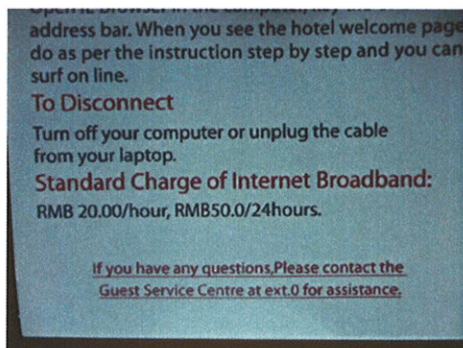
瀋陽は外気温マイナス2℃と暖かい。右側通行なんですね。片側4車線の道路を一路瀋陽市へ。

「瀋陽」は「瀋(川の名前)の北側」の意味で、太陽とは関係がないそうです。約40分でクラウンプラザホテル瀋陽(旧インターコンチネンタルホテル)着。

大通りを挟んで真向かいが旧満州医科大学の煉瓦建ての建物と、隣接する中国医科大学附属第一医院。途中盛京医院の前を通りました。



クラウンプラザホテルのフロントで日本円から人民元に両替え。(現金準備が少ないので)一日に両替できるのは3万円までの制限あり。



部屋はダブルベッドのゆったりした間取り。インターネットも(有線接続で)問題なく繋がる。机上に接続は有料(20RMB/hr, 50RMB/24hr)と書いてあるが、最終的には無料でした。毎晩翌日のスライドの手直しをしたため、睡眠時間は平均4時間。

同日夜は陳衛民教授夫妻のご招待でホテル近くの「金城飲食文化」で中華料理。発酵させた白菜の鍋料理は中国東北地方の郷土料理。やや酸味があり日本人の好みに合います。青島ビール、雪花ビール(こちらは瀋陽市で生産、アサヒビール系)はアルコール度が低く(2.5%),とても軽い口当たりで酔いません。



夕食後、腹ごなしに印材を探しに夜の街をデパートへ。「玉(ぎょく)」の印材はめちゃ高い。中国のデパートには食品売り場がなく、食品はスーパーマーケットで調達するしかない。みやげ物の候補は乾燥棗くらいしかないなあ。夜はさすがに気温が下がり(零下 10 度以下)、露出している顔面が冷気で痛い。



ホテルの洗面所には飲用のミネラルウォーター2本(無料)と、赤い箱が置いてある。紙箱の正面には「クラウンプラザホテル」の名前とロゴがデカデカと書いてあります。



何だろうと横面の表示を読むと、

「避妊具2セット」「強精クリーム」「洗浄液」で 50 元(約¥630)也。

強精クリーム(“THE PASSIONS LASTING”)の漢字説明が

「我能激情持久 男用精油」

と云うのには、漢字文化の重みを感じてしまいます。

これまで各国のホテルに泊まりましたが、こんなことは初めての経験で、下ネタですがさらにご披露しますと^;.

1. 赤い箱の名前は「应急宝 Emergency Kit」
2. 強精クリーム(“THE PASSIONS LASTING”)の漢字説明

「我能激情持久 男用精油」

に日本語訳が付いていました。以下は原文のとおりです。

「僕は激情が長い間続いて 男性用精油になることができます」 (?!?! ???)

3. 麻酔科 陳教授にお聞きしたところ、中国のホテルの約半数には、ホテル名入り「应急

宝」が置いてあるそうです。知らなかったのはこちらの経験不足か^^;

瀋陽市内は大気汚染(石炭の煙と車の排気ガス)で、一日中 ”もや” がかかっています。

札幌市の古い友人に瀋陽の ”もや” について

「人が多くて車が多くて、車の排気ガスと暖房用の石炭の煙で市内は1日中「もや」がかかった状態で、もやの晴れることがありません」と書き送った所、

> …覚えていませんか… 昔、札幌も藻岩山から眺めると全く同じ情景でした。石炭ストーブ
> の煙りが市の上空 100 ㍎～300 ㍎を真っ黒に覆っていたのを記憶しています。

この札幌の風景は 1960 年代初めの話。瀋陽の大気汚染改善にはまだ相当年月がかかりそうです。



上の 2 枚はホテル9階の自室から撮影した写真。向かいの旧満州医科大学や歩行者がかすんで見えるのがお判りになると思います、

2012/1/16 (月)

「クラウンプラザホテル瀋陽」ロビー. 春節の飾り付け.



旧満州医科大学の煉瓦造りの建物と、市内に残る南満州鉄道の給水塔. この写真もかすんでいますね.



交通事情は昔（10年前）の中国と変わらず「車優先」で、しかも全部の車が頻りに車線を変更して少しでも前に出ようとするので、助手席に乗っていてヒヤヒヤします。交通事故はとても多いそうです。

10年前に比べて変わったのは自転車をほとんど見なくなったこと。あの洪水のような自転車が自家用車に置き換わったと考えればこの慢性的な交通渋滞は合点がいきます。

交通は完全な「車優先」かつ「無秩序の秩序」。割り込み・幅寄せ当たり前。でも2日もするとこの無秩序に慣れてくるのが我ながらオソロシイ。



毎朝中国医科大学の公用車で王さんとともにホテルから盛京医院まで移動。運転手さんはこの道30年の中国医科大学職員。

朝のラッシュ時間なので予定時間には盛京病院に着かず、講義開始時間（8:00am）に数分食い込む。写真は耐寒仕様の盛京医院駐車場整理員さん。





中国医科大学附属盛京医院 第一手術室. 清潔・不潔区域には物理的なバリア（「万里の長城」という感じ）が設置されていて完全二足制です. シューズロッカーと着衣ロッカーは別で,

2種類の鍵がセットになっている. 終日係の女性職員が入退室者に目を光らせており, 入室者にはその都度ロッカーの鍵を手渡す. 従って教授と云えども固定したロッカーは割り当てられていません. 内履きは(コピー商品ではなく)本物のクロックスらしい.



更衣のついでに陳教授の着衣を尋ねると, 下半身は厚手のパッチ 2 枚重ね, 上半身はシャツの上に毛糸のシャツを重ね, その上に上着+厚手のオーバーコート.

盛京病院(第1手術部内)麻酔科集会室で第1回の講義. ざっとかぞえたところ 50 名出席. 女性麻酔科医が60%を超える. 春節前の休暇時期に入っていて, 日ごとに参加者は減少し,

最終日は 38 名くらい。

左端に写っている白衣の女医さんは通訳を務めてくれた Dr 徐。



いくつか動画を用意して行きましたが、一番受けたのは、金沢紹介の動画。和菓子職人が、練り切りの材料を掌にのせ、竹べらで花の形に造形する場面では(特に女性麻酔科医から)「きれい～」とため息のような嘆声上がる。硬膜外麻酔による意識下冠動脈バイパス術(AOPCAB)の動画では、手術中に患者が目を開ける場面で中国人麻酔科医達が“息を呑む”音が聞こえる。1時間の講義3回の中に、居眠りをする聴講者は皆無でした。

2012/1/17 (火)

2 日目の朝, 盛京病院前で 外事処の王さんと陳衛民教授. 陳教授は手術室のユニフォームにオーバーだけで寒そう. この日は(7:30 の) ホテルでのピックアップ予定が 10 分近く遅れて, 運転手さんは運転しながらビスケットの朝食. 済みませんねえ, 朝早くから.



2 日目の講義の後 手術室を見学. 写真左:陳衛民教授と, 今回の(本来の)研修生の一人である一線病院の 杜 超 Du chao 先生. 写真右:ユニフォーム, デッキ, 術衣ともに地味な暗めの色使い. 女性外科医も多く, 1 室に男は麻酔科医1名のみと云うことも珍しくない.



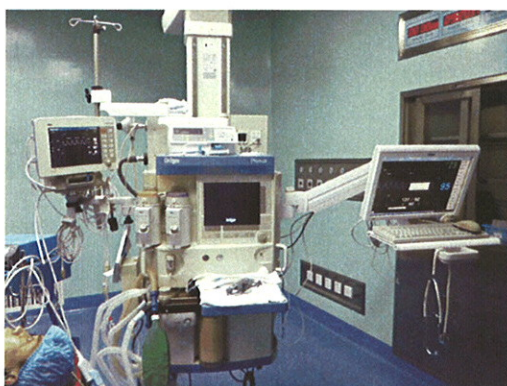
2011 年後期 笹川研修生と、向かって左から崔昌実 Cui chang-shi 先生、陳衛民教授、山本健、杜超 Du chao 先生、高原 Gao yuan 先生。



足関節部の静脈から麻酔導入薬静注。日本では(静脈血栓が増えるとの理由で)ほとんど使わない点滴部位です。



全身麻酔器はDräger Primus/Zeus (ドイツ本社製)。モニターもわれわれが日常使っているのと同じレベルのものが揃っている。電子麻酔記録はまだ導入されておらず、懐かしい手書きの麻酔記録。



中国製のビデオ喉頭鏡. 陳教授の私物みたいです.



これだけ大所帯の手術部なので, 手術部内に食堂があります. 職員と同じ昼食を食べさせて貰いました.



4人掛けのテーブルが 24 脚設置されていて, 定食 8 元! 営業時間 11:00-14:00 時. 訪問した時間は 10:30am でしたが, かなりの数の手術室スタッフが食事をしていました.

(3年目未満の)若い医師には(沢山食べるだろうから?) 300 元/月, それより高齢の医師には 200 元/月 の食費が病院からカードに入金されます. 病院に勤めている限り食べるには事欠かない, ということですね.

トレイの左下隅はニンニクの芽(蒜苗)の炒め物. 右上は饅頭です. 贅沢を云わなければ十分栄養が取れます. 陳教授は「毎日同じメニューだと飽きます」と云っていましたが, それはまあ仕様がでないでしょう.

盛京病院では、身分証明を左腕に入れるんですね。（日本では胸ポケットか首から下げますが）



盛京病院エレベーター内の掲示. 病院内は各種のスローガンのオンパレード.



「救死扶傷 实行革命的人道主義」毛沢東が盛京病院に与えたスローガンだそうです.

ICU の説明とスタッフ紹介。スタッフは同じ船に乗っている同志という考えですね。
一蓮托生？ 相性が悪いと呉越同舟、かも。



産科の医員室(むしろ医局の雰囲気)。ここにも壁にスローガン。意味はよく判りません。



盛京病院第1楼 B 座ロビーの大垂れ幕。「患者を思いやることのできる良医を 率先して目指そう！」と云う ほどの意味か.



前の大垂れ幕と対になる垂れ幕。「日本語にするのはむずかしいなあ」と陳衛民教授.

